Ⅱ　作物別作付（栽培）面積

１　水陸稲（子実用）

(1)　水稲

令和２年産水稲（子実用）の作付面積は146万2,000haで、前年産に比べ8,000ha減少した（表５）。

作付面積の動向をみると、昭和44年の317万3,000haを最高に、昭和45年以降は生産過剰基調となった米の需給均衡を図るための生産調整が実施されたこと等から、減少傾向で推移している（図４）。

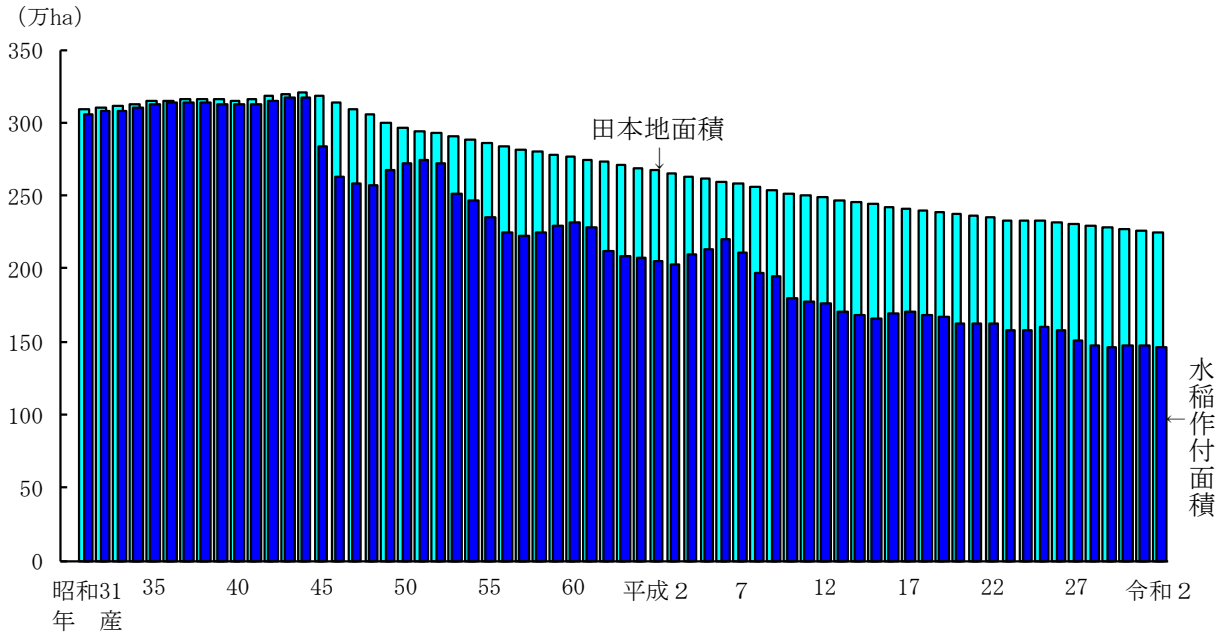
(2)　陸稲

令和２年産陸稲（子実用）の作付面積は636haで、前年産に比べ66ha（9%）減少した（表５）。

表５　令和２年産水陸稲（子実用）作付面積（全国農業地域別）

全国農業地域	水陸稲計			水稲			陸稲		
	作付面積	前年産との比較		作付面積	前年産との比較		作付面積	前年産との比較	
		対差	対比		対差	対比		対差	対比
	ha	ha	%	ha	ha	%	ha	ha	%
全国	**1,462,000**	**△ 8,000**	**99**	**1,462,000**	**△ 7,000**	**100**	**636**	**△ 66**	**91**
北海道	102,300	nc	nc	102,300	△ 700	99	0	nc	nc
都府県	1,360,000	nc	nc	1,359,000	△ 7,000	99	636	nc	nc
東北	381,500	nc	nc	381,500	△ 500	100	1	nc	nc
北陸	206,400	nc	nc	206,400	△ 100	100	x	nc	nc
関東・東山	270,200	nc	nc	269,600	△ 1,500	99	x	nc	nc
東海	92,500	nc	nc	92,500	△ 600	99	0	nc	nc
近畿	101,300	nc	nc	101,300	△ 1,300	99	－	nc	nc
中国	101,200	nc	nc	101,200	△ 900	99	－	nc	nc
四国	47,400	nc	nc	47,400	△ 900	98	－	nc	nc
九州	158,600	nc	nc	158,600	△ 1,400	99	0	nc	nc
沖縄	650	nc	nc	650	△ 27	96	－	nc	nc

図４　水稲（子実用）作付面積の推移



２　麦類（子実用）

(1)　４麦計

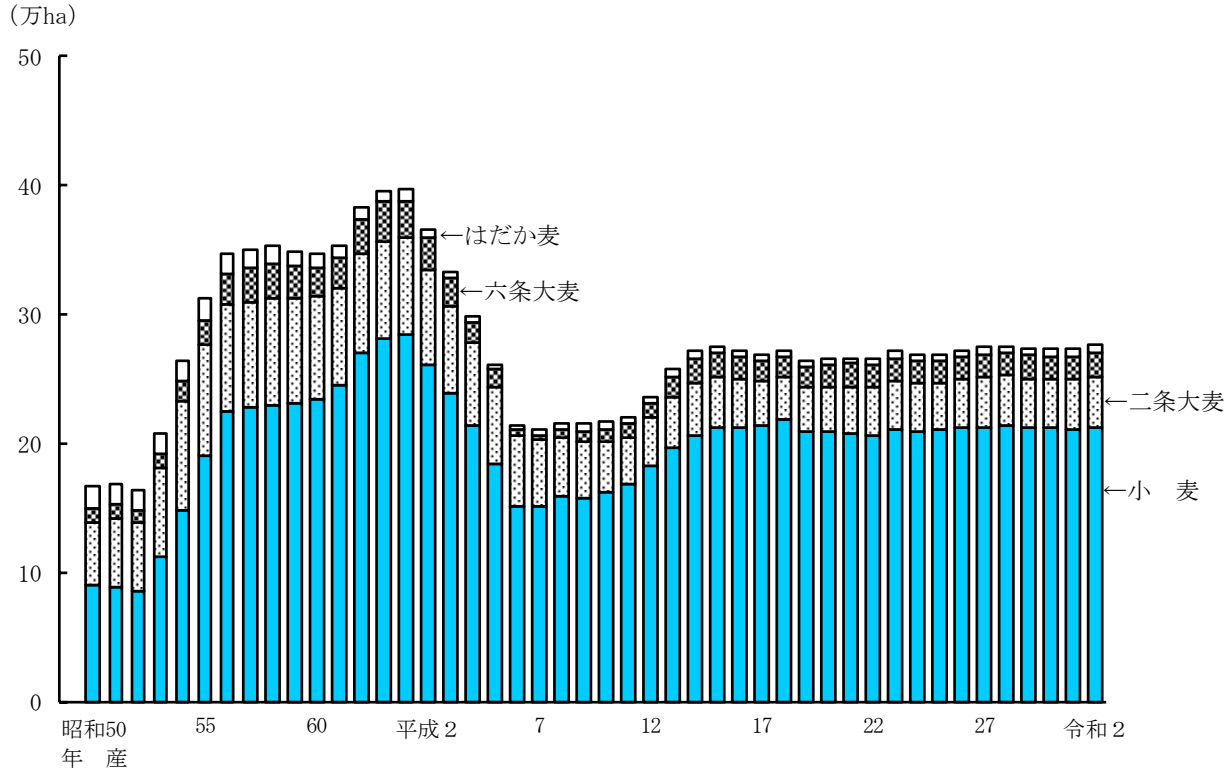
令和２年産４麦（子実用）の作付面積は27万6,200haで、前年産に比べ3,200ha（１％）増加した。麦種別には、小麦は前年産並み、二条大麦は前年産に比べて1,300ha（３％）増加し、六条大麦は前年産に比べて300ha（２％）増加し、はだか麦は550ha（10％）増加した（表６）。

作付面積の動向をみると、作付農家数の減少、水田裏作の減少等により昭和48年に15万4,800haと過去最低となった。その後、麦の生産振興策が講じられたこと、米の転作作物として田作小麦が増加したこと等により、平成元年には39万6,700haとなった。平成２年以降は水田裏作の減少等により再び減少し、平成７年には21万200haとなった。平成８年以降は米の需給調整対策の推進等に伴い再び増加傾向で推移したが、平成14年以降はほぼ横ばいとなっている（図５）。

表６　令和２年産４麦（子実用）作付面積（田畑別）

区　分	計			田			畑		
	作付面積	前年産との比較		作付面積	前年産との比較		作付面積	前年産との比較	
		対差	対比		対差	対比		対差	対比
	ha	ha	%	ha	ha	%	ha	ha	%
４麦計	**276,200**	**3,200**	**101**	**176,400**	**4,100**	**102**	**99,800**	**△ 1,000**	**99**
小麦	212,600	1,000	100	118,100	2,000	102	94,500	△ 1,000	99
二条大麦	39,300	1,300	103	35,900	1,300	104	3,440	80	102
六条大麦	18,000	300	102	16,400	400	103	1,580	△ 70	96
はだか麦	6,330	550	110	6,070	550	110	265	6	102

図５　４麦（子実用）作付面積の推移



(2)　麦種別作付面積

ア　小麦

令和２年産小麦の作付面積は21万2,600haで、前年産並みとなった。

このうち、北海道は12万2,200haで、前年産に比べ800ha（１％）増加した。

また、都府県は９万400haで、前年産並みとなった（表７）。

イ　二条大麦

令和２年産二条大麦の作付面積は３万9,300haで、前年産に比べ1,300ha（３％）増加した（表７）。

ウ　六条大麦

令和２年産六条大麦の作付面積は１万8,000haで、前年産に比べ300ha（２％）増加した（表７）。

エ　はだか麦

令和２年産はだか麦の作付面積は6,330haで、前年産に比べ550ha（10％）増加した（表７）。

これは、近年の健康志向の高まりから、需要が増加したためである。

表７　令和２年産４麦（子実用）作付面積（全国農業地域別）

全国農業地域	４麦計			小麦			二条大麦			六条大麦			はだか麦		
	作付面積	前年産との比較		作付面積	前年産との比較		作付面積	前年産との比較		作付面積	前年産との比較		作付面積	前年産との比較	
		対差	対比		対差	対比		対差	対比		対差	対比		対差	対比
	ha	ha	%	ha	ha	%	ha	ha	%	ha	ha	%	ha	ha	%
全国	**276,200**	**3,200**	**101**	**212,600**	**1,000**	**100**	**39,300**	**1,300**	**103**	**18,000**	**300**	**102**	**6,330**	**550**	**110**
北海道	124,200	900	101	122,200	800	101	1,760	60	104	19	2	112	195	46	131
都府県	152,100	2,300	102	90,400	200	100	37,500	1,200	103	18,000	300	102	6,140	510	109
東北	7,660	△ 30	100	6,300	△ 70	99	14	0	100	1,340	40	103	x	x	x
北陸	9,740	80	101	355	△ 21	94	2	0	100	9,380	100	101	2	x	x
関東・東山	37,600	△500	99	20,500	△300	99	12,200	0	100	4,520	△210	96	x	x	x
東海	17,000	200	101	16,200	200	101	11	7	275	703	△ 6	99	x	x	x
近畿	10,400	100	101	8,090	△340	96	x	x	x	1,930	410	127	x	x	x
中国	6,580	540	109	2,690	150	106	2,860	160	106	x	x	x	927	220	131
四国	5,130	210	104	2,400	130	106	x	x	x	x	x	x	2,710	80	103
九州	58,000	1,600	103	33,900	500	101	22,300	1,100	105	19	x	x	1,760	20	101
沖縄	x	x	x	13	△ 3	81	x	x	x	－	－	nc	－	－	nc

３　かんしょ

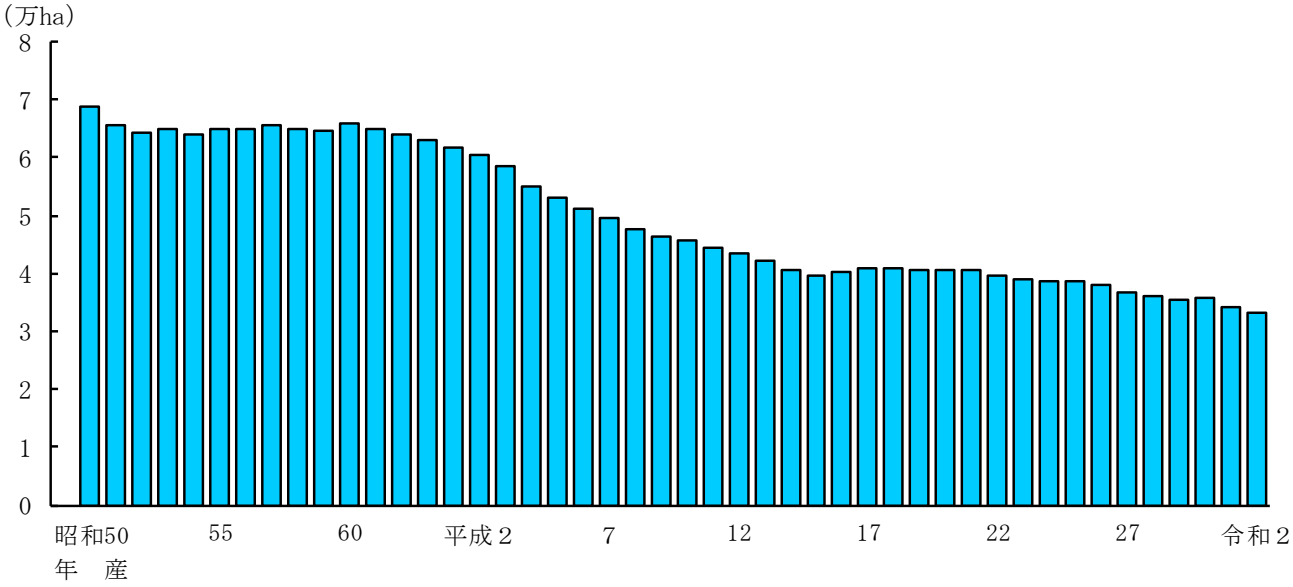
令和２年産かんしょの作付面積は３万3,100haで、前年産に比べ1,200ha（３％）減少した（表８）。

作付面積の動向をみると、昭和60年以降は減少傾向で推移している（図６）。

表８　令和２年産かんしょ作付面積

区分	計			田			畑		
	作付面積	前年産との比較		作付面積	前年産との比較		作付面積	前年産との比較	
		対差	対比		対差	対比		対差	対比
	ha	ha	%	ha	ha	%	ha	ha	%
かんしょ	33,100	△ 1,200	97	2,180	△ 340	87	30,900	△ 900	97

図６　かんしょ作付面積の推移



４　そば（乾燥子実）

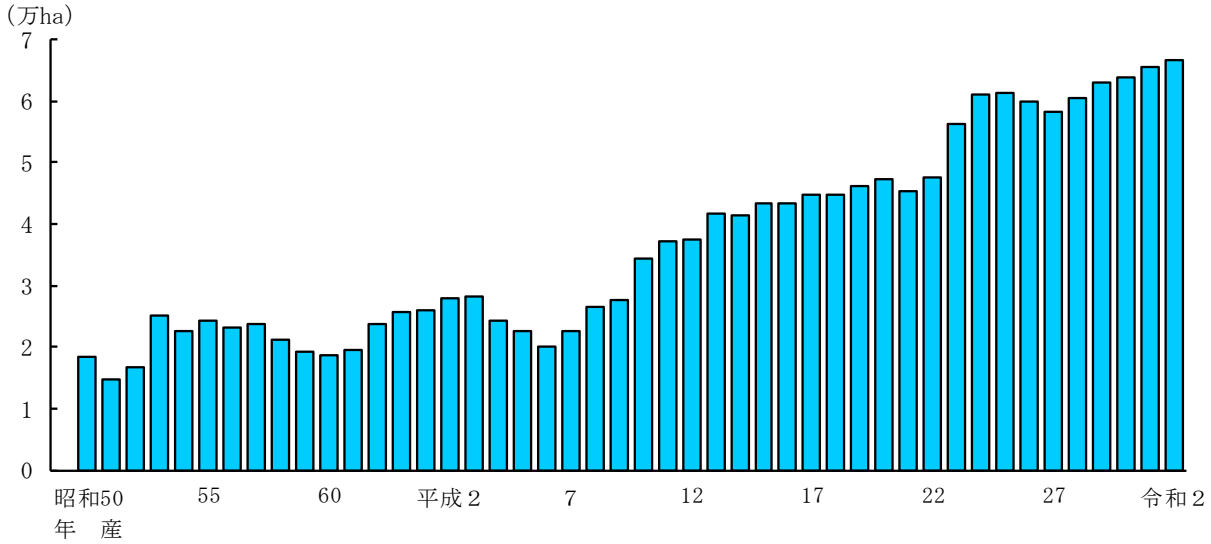
令和２年産そば（乾燥子実）の作付面積は６万6,600haで、前年産に比べ1,200ha（２％）増加した（表９）。

作付面積の動向をみると、昭和61年以降増加傾向で推移した後、米の生産調整目標面積の緩和措置等により平成４年から平成６年までは減少した。平成７年以降は米の需給調整対策の推進等により再び増加傾向で推移している（図７）。

表９　令和２年産そば（乾燥子実）作付面積（全国農業地域別）

全国農業地域	計			田			畑		
	作付面積	前年産との比較		作付面積	前年産との比較		作付面積	前年産との比較	
		対差	対比		対差	対比		対差	対比
	ha	ha	%	ha	ha	%	ha	ha	%
全国	**66,600**	**1,200**	**102**	**38,900**	**700**	**102**	**27,800**	**600**	**102**
北海道	25,700	500	102	9,730	130	101	16,000	400	103
都府県	40,900	800	102	29,100	500	102	11,800	200	102
東北	17,000	100	101	13,000	100	101	4,050	100	103
北陸	5,570	220	104	4,950	160	103	621	57	110
関東・東山	12,500	300	102	6,780	210	103	5,720	60	101
東海	569	0	100	465	△ 3	99	104	3	103
近畿	927	8	101	x	x	x	x	x	x
中国	1,530	△ 50	97	1,350	△ 10	99	182	△ 37	83
四国	106	△ 13	89	63	△ 5	93	43	△ 8	84
九州	2,600	140	106	1,630	100	107	972	45	105
沖縄	69	18	135	－	－	nc	69	18	135

図７　そば（乾燥子実）作付面積の推移



５　豆類（乾燥子実）

(1)　大豆（乾燥子実）

令和２年産大豆（乾燥子実）の作付面積は14万1,700haで、前年産に比べ1,800ha（１％）減少した（表10）。

作付面積の動向をみると、外国産大豆の輸入の増加により減少傾向で推移していたが、昭和53年から米の転作作物として田作大豆を中心に増加した。その後、昭和63年以降は減少傾向で推移し、平成６年には過去最低の６万900haとなった。平成７年から平成15年までは米の需給調整対策の推進等から再び増加傾向で推移し、平成16年以降は上下動のある動きとなっている（図８）。

(2)　小豆（乾燥子実）

令和２年産小豆（乾燥子実）の作付面積は２万6,600haで、前年産に比べ1,100ha（４％）増加した（表10）。

主産地である北海道の作付面積は２万2,100ha（全国の約８割）で、主に他作物からの転換等により、前年産に比べ1,200ha（６％）増加した。

(3)　いんげん（乾燥子実）

令和２年産いんげん（乾燥子実）の作付面積は7,370haで、前年産に比べ510ha（７％）増加した（表10）。

主産地である北海道の作付面積は6,860ha（全国の約９割）で、540ha（９％）増加した。

(4)　らっかせい（乾燥子実）

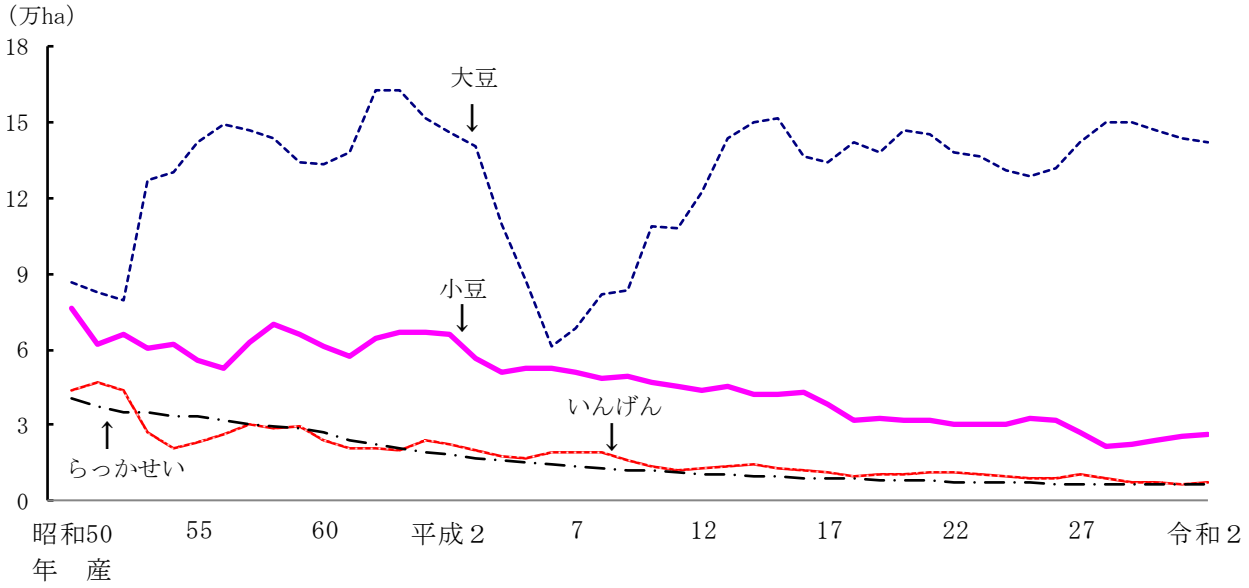
令和２年産らっかせい（乾燥子実）の作付面積は6,220haで、前年産に比べ110ha（２％）減少した（表10）。

表 10　令和２年産豆類（乾燥子実）作付面積（全国農業地域別）

区　分	大　豆（乾燥子実）											
	全国	北海道	都府県	東北	北陸	関東・東山	東海	近畿	中国	四国	九州	沖縄
作付面積(ha)	141,700	38,900	102,700	34,900	11,900	9,570	11,800	9,100	4,250	493	20,800	x
対前年差(ha)	△ 1,800	△ 200	△ 1,700	△ 200	△ 500	△ 320	△ 100	△ 310	△ 80	4	△ 200	x
対前年比(%)	99	99	98	99	96	97	99	97	98	101	99	x

区　分	小　豆（乾燥子実）					いんげん(乾燥子実)		らっかせい（乾燥子実）		
	全国	北海道	滋賀	京都	兵庫	全国	北海道	全国	茨城	千葉
作付面積(ha)	26,600	22,100	191	451	807	7,370	6,880	6,220	515	4,980
対前年差(ha)	1,100	1,200	82	4	21	510	540	△ 110	△ 13	△ 80
対前年比(%)	104	106	175	101	103	107	109	98	98	98

図８　豆類（乾燥子実）作付面積の推移



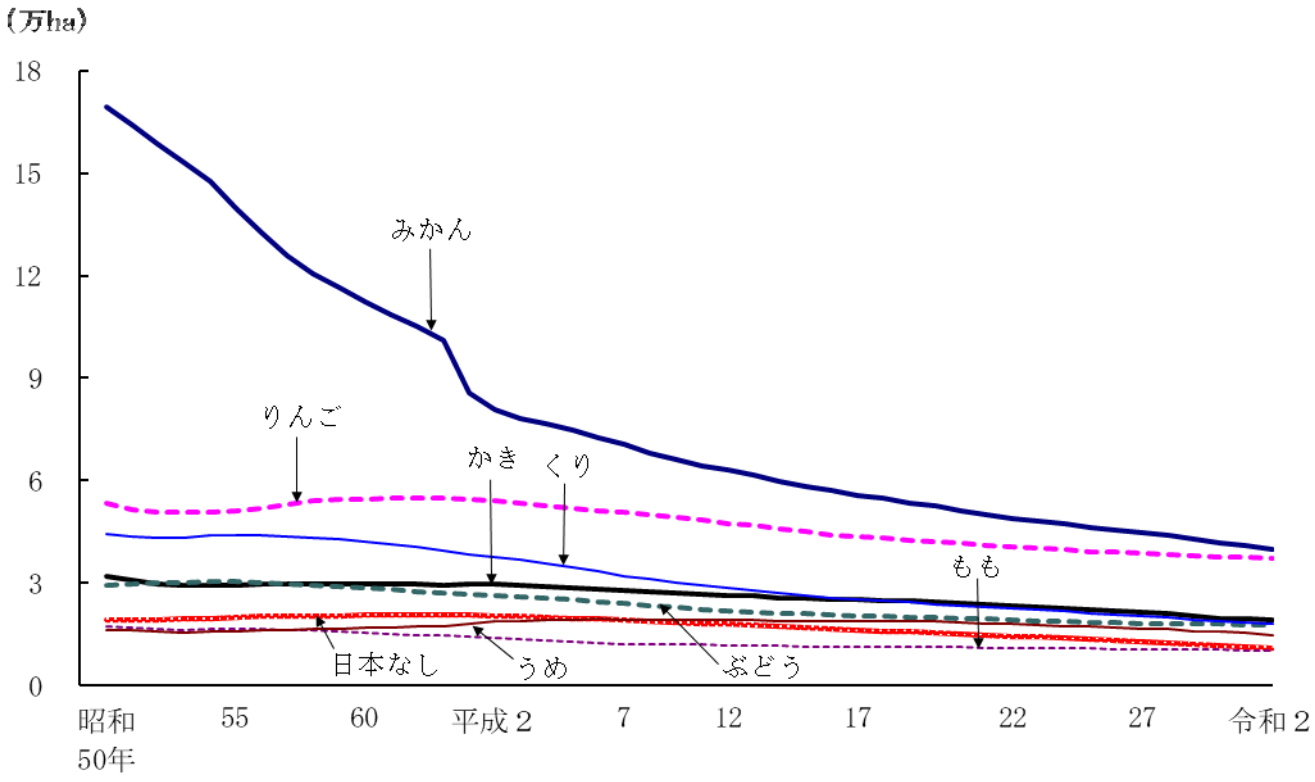
６　果樹

令和２年果樹の主な品目別の栽培面積は、みかんは３万9,800ha、りんごは３万7,100ha、かきは１万9,000ha、くりは１万7,900haで、前年に比べそれぞれ1,000ha（２％）、300ha（１％）、400ha（２％）、500ha（３％）減少し、ぶどうは１万7,800haで、前年並みとなった（表11）。

表 11　令和２年果樹栽培面積

区分	栽培面積	前年との比較		区分	栽培面積	前年との比較	
		対差	対比			対差	対比
	ha	ha	%		ha	ha	%
みかん	39,800	△ 1,000	98	すもも	2,880	△ 50	98
その他かんきつ類	24,600	△ 500	98	おうとう	4,680	△ 10	100
りんご	37,100	△ 300	99	うめ	14,800	△ 400	97
日本なし	11,000	△ 400	96	ぶどう	17,800	0	100
西洋なし	1,480	△ 30	98	くり	17,900	△ 500	97
かき	19,000	△ 400	98	パインアップル	584	4	101
びわ	1,070	△ 70	94	キウイフルーツ	2,050	0	100
もも	10,100	△ 200	98				

図９　主要果樹栽培面積の推移



7　茶

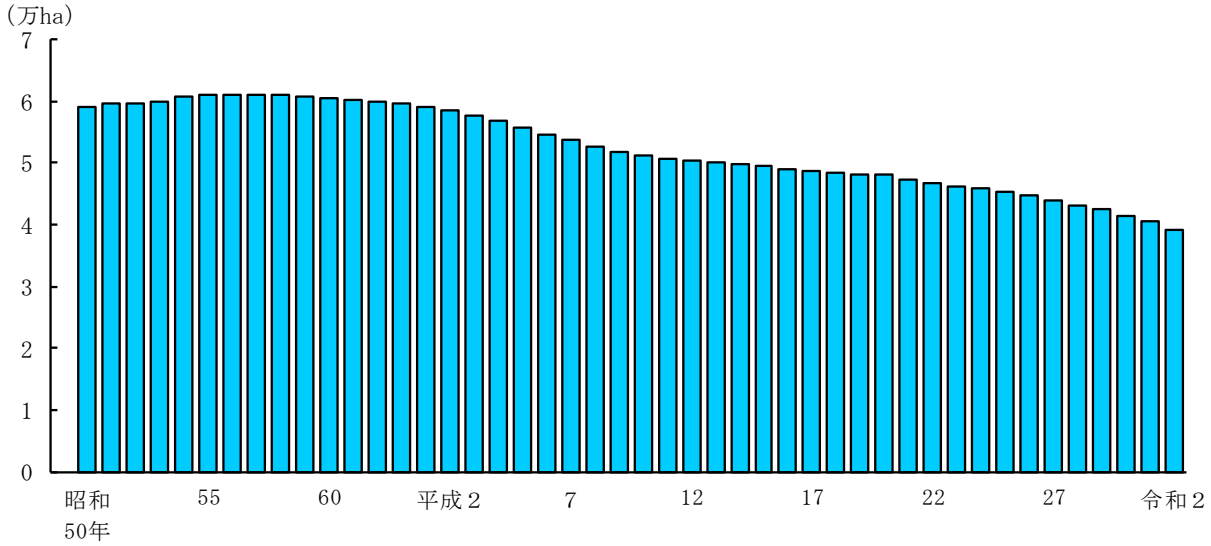
令和２年茶の栽培面積は３万9,100haで、前年に比べ1,500ha（４％）減少した（表12）。

栽培面積の動向をみると、昭和50年代半ばまでは増加傾向で推移していたものの、それ以降は漸減傾向で推移している（図10）。

表 12　令和２年茶栽培面積

区　　分	栽培面積	前年との比較	
		対　差	対 比
	ha	ha	%
茶	39,100	△1,500	96

図 10　茶栽培面積の推移



8　飼料作物、えん麦（緑肥用）

(1)　飼料作物の作付（栽培）面積計

令和２年産飼料作物の作付（栽培）面積は95万5,700haで、前年産に比べ5,900ha（１％）減少した（表13）。

ア　牧草

令和２年産牧草の作付（栽培）面積は71万9,200haで、前年産に比べ5,200ha（１％）減少した。

イ　青刈りとうもろこし

令和２年産青刈りとうもろこしの作付面積は９万5,200haで、前年産と比べ500ha（１％）増加した。

ウ　ソルゴー

令和２年産ソルゴーの作付面積は１万3,000haで、前年産に比べ300ha（２％）減少した。

(2)　えん麦（緑肥用）

令和２年産えん麦（緑肥用）の作付面積は４万1,100haで、前年産に比べ500ha（１％）減少した（表13）。

表 13　令和２年産飼料作物、えん麦（緑肥用）作付（栽培）面積

区　　分	作付（栽培）面　積	前年産との比較	
		対　差	対　比
	ha	ha	%
飼　料　作　物　計	**955,700**	**△ 5,900**	**99**
うち　牧　草	719,200	△ 5,200	99
青刈りとうもろこし	95,200	500	101
ソ　ル　ゴ　ー	13,000	△ 300	98
え　ん　麦　（　緑　肥　用　）	41,100	△ 500	99

注：　飼料作物計とは、牧草、青刈りとうもろこし、ソルゴーのほか、その他飼料作物（飼料用米等）を含めた合計である。

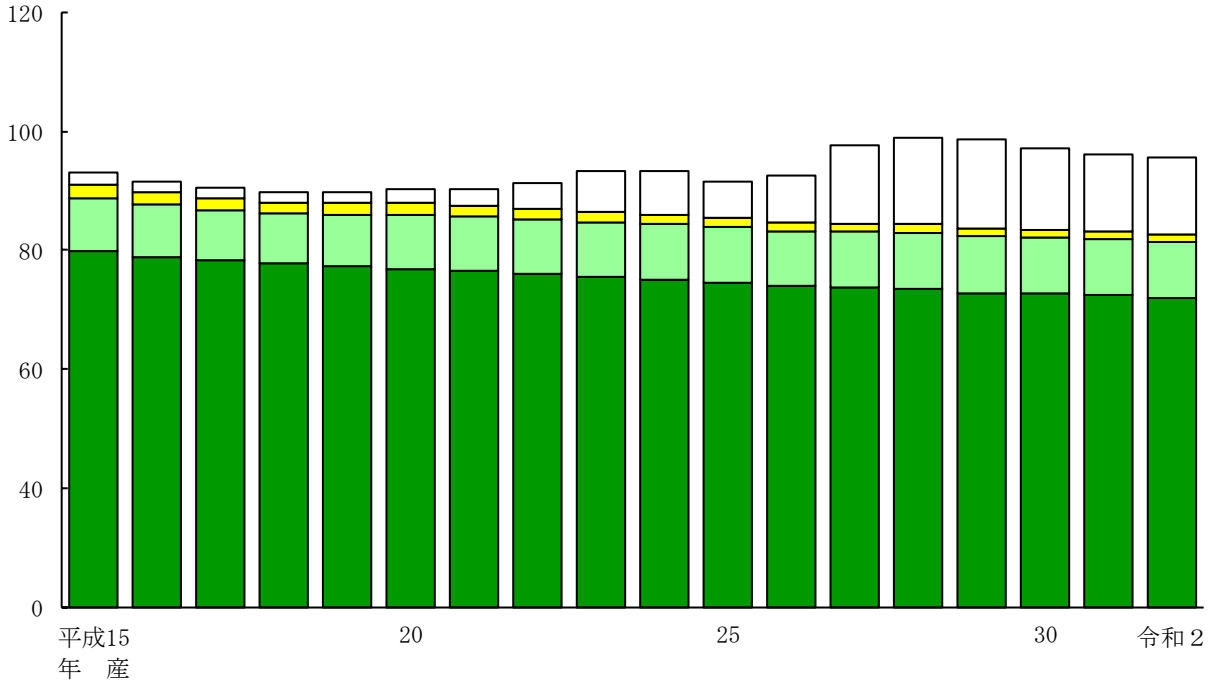



図 11　飼料作物作付（栽培）面積の推移